

キャラクター名
カノメ

プレイヤー名

シンドローム	エンジェルハイロウ		ワークス	何でも屋	カヴァー	ヴィジランテ
	オルクス					
オプション			年齢	24	性別	男性
覚醒	犠牲	衝動	自傷	初期侵食率	37	%
出自	ヴィランの子	経験	裏切り	邂逅	秘密	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	24
肉体	0	1	0			1	行動値	10
感覚	4	0	0			4	(非装備時)	10
精神	2	0	0			2	戦闘移動	15
社会	2	0	0			2	全力移動	30

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃			RC			交渉		
回避	1		知覚	3		意志	4		調達	1	
運転:			芸術:			知識:			情報: 噂話	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
バットカンパニー	
ハイドアウト	
思い出の一品	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイム	消費
D裏切りの正義	P	N		
親	P 同情	N 憎悪		
組織の仲間	P 信頼	N 不安		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 6 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
ミラーコート	3	3	セ					
効果: シーン間ドッチの判定ダイスLv+2								
ブラックアウト	3	3	オ					
効果: ドッチ判定後達成値+5 複数回可 Lv回								
神の目	1	1	リ					
効果: 知覚でドッチを行える								
リフレックス (エン	3	2	リ					
効果: C-Lv								
鏡の中の人形	3	3	オ					
効果: 対象が失敗したドッチ判定を代わりにに行い成功したら回避する								
ミスディレクション	2	5	オ					
効果: 対象範囲、範囲 (選択) を単体に変更								
ミラーイメージ	2	4	セ				80	
効果: ラウンド間ドッチC-1 (下限6)								
妖精の手	4	5	オ					
効果: 判定後ダイスを一つ10に変える								
束縛の領域	1	5	オ				80	
効果: 対象の攻撃の判定と対決し勝つと判定を失敗にさせる								
隠された世界	1	1d10	オ				100	
効果: 対象単体以外の攻撃を単体に変更								
フルディフェンス	4	4	セ					
効果: Lv*2ドッチ判定ダイスを増やす 行動済みになる								
妖精の輪	2	4	オ					
効果: 妖精の手をもう一回その判定に使える								
チャンピオンズマスク	★							
効果: ヒーローの姿で出ても正体がばれないぞ!								

僕の両親は、ヴィランだった。だから、本当は僕もヴィランになるはずだった。でも、僕は、少しおかしかったんだと思う。親を見て、あんなこと間違っていると思った。ヒーローみて守る力に憧れた。でも、親から教わったのは、殺すこと、力が全てであること、そして、ヒーロー達が本当は何もわかっていない頭のおかしいやつらだということ。でも、僕はそうは思えなかった。親は小さいながらも組織を作ってその幹部をやっていた。数年たち、親が『お前も巣立ちの時来た。殺せ。はやく。こいつにとどめをさせ。そうすれば、お前も一人前だ。』そう言って、ポロポロに弱ったヒーローを僕の前に投げつけて出て来た。僕は、なんで、親はこんなことを平然とできるんだ？ どうして殺さないといけない？僕は混乱しそして。親は『そうか…お前はまだ、時ではないということか…まだ時間はある。次回にしよう』と言ってトドメを刺そうとした時、僕は、ヒーローの前に立って庇っていた。そして、親に、牙を剥き、親をこの手で殺した。僕は、裏切った。組織はその後解散したが、何人かは、僕と同じように、考えていた仲間がいた。そいつらとはまだ縁がある嬉しいことだ。それから、殺しの力を使わないことを心に決め、この力は、守る力だと自分に言い聞かせ。誰かを救う仕事を頼まれたらやるような何でも屋になった。

